

〔編集後記〕

編集主幹を担当して2年目、84巻に引き続き編集後記を自ら執筆することにした。84巻より始めた札幌医学雑誌の改革も本年度をもって一区切りと考えている。〈教室研究紹介〉に代えて始めた〈教授の研究紹介〉では、4人の先生に執筆いただいた。前理事長・学長の島本和明先生には、ご自身の研究歴を分かり易く書いて頂いている。これまでも島本先生の講演を聴いた人は多いと思われるが、日本語で一般向けに書かれた総説は少なく、大変貴重である。若き日の研究から教授として指揮してきた研究を網羅している。病理学第二講座 澤田典均先生、耳鼻咽喉科学講座 氷見徹夫先生、公衆衛生学講座 森満先生には、それぞれの代表的な研究について、またご自身の研究理念について書かれている。ご自身の研究に対する姿勢がよく伝わる、札幌医学雑誌でしか読めない総説になっている。ご多忙のところ執筆いただいた先生方には、編集委員を代表して感謝申し上げます。特に、本年度末をもって退職される森教授には、これまで札幌医学雑誌に多くの原著論文を投稿していただいた。公衆衛生学の分野は、日本語で投稿できる雑誌

が極めて限定されていると以前の編集後記に書かれているが、投稿論文数が減少していた本誌にとって貴重な原著論文であった。本誌に対するこれまでの多大な貢献に対して改めて感謝申し上げる次第である。

昨年度号より始めた本学若手研究者の論文紹介も充実してきた。本年度号は7人の新進気鋭の若手研究者の研究が紹介されている。次号では本年より多くの論文を紹介できることを期待している。札幌医学雑誌では、新たに北海道における同窓生が関わる医療活動についての報告も掲載することとした。本号には堀本先生らの性暴力被害者支援センター北海道の活動報告を掲載している。研究論文とは異なり、査読評価の難しさはあるができるだけ掲載したいと考えている。北海道の医学・医療分野における広報誌としての役割も果たすことにより、札幌医学雑誌の存在価値を高めることに繋がると考えるからである。公表する場が限られているが社会的意義のある原稿の投稿も歓迎する。

(編集主幹 三高 俊広)